

## 林裕己「漢三國西晋鏡銘集成」に寄せて

横浜ユーラシア文化館

林裕己氏から横浜市歴史博物館に蔵書の寄贈の申し出をいただいたのは、2011年のことである。多くが中国鏡に関する研究書であったことから、同博物館と同じく公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団が管理運営する横浜ユーラシア文化館で受贈することとなった。受贈の手続のため連絡を取り合う中で、林氏が長年にわたって、中国鏡の銘文をコンピューターに入力されており、膨大なデータが蓄積されていることを知った。このデータを公開すれば、これからこの分野を研究する人々にとって欠かせない基本文献となる。ぜひ公開していただきたいとお願いし、2012年からデータベース公開のための準備を始めた。

インターネットでの公開という方法を選択したのは、世界中どこからでもアクセスでき、しかも検索が容易であることが第一の理由である。第二の理由としては、次々に新しい情報が発信される現代において、データの追加および修正に即座に対応できるという利点が挙げられた。

公開の準備として、まずは、あらためて全ての文献に当たり直し、入力情報の校正を行った。それと並行して、どこまでの情報をどのような形で公開するのかを検討した。校正は横浜ユーラシア文化館が行い、林氏の確認を受けた。公開内容については基本的に林氏に一任し、公開方法の技術的な問題については、両者で検討を重ねた。このような3年間の準備を経て、今回第1回の公開の運びとなった。

このたびの公開では、約6000の銘文を、PDFでウェブサイトに掲載する。今後も識者のご批判をいただきつつ、修正とデータの追加を行っていく予定である。

本「漢三國西晋鏡銘集成」が広く当該研究の進展に資することを確信すると共に、横浜ユーラシア文化館のウェブサイトでのデータ公開を了承されご尽力くださった林氏に、感謝の意を表するものである。

2015年3月